

教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況	
主体的で、感性豊かな子供を育てる	自分の思いを伸び伸びと表現しながら、主体的に遊ぶ子供を育てよう	豊かな感性や心を育てる	豊かな体験活動	広い砂場や園庭、地域の公園、隣接する小学校など園の特性を活かして、子供の興味関心を探りながら、子供がより、豊かな学びにつなげていけるよう取り組んできた。
			自然環境の充実	自然豊かな園庭を活用し、四季折々の草花の移り変わりに関心をもてるように、また、虫や小動物の触れ合いを楽しんだり、自然物を使って遊びに取り入れられるように環境を整えてきた。
			温かい人間関係を築く	遊びや生活の中で友達と心通わせたり、異年齢の友達と自然と関わる中で、憧れの気持ちや思いやり、優しい気持ちの芽生えを大切にしてきた。
		たくましく育つ子供	自ら進んで遊ぶ	自分の好きな遊びを選び、安心して自由に伸び伸びと活動できるように職員の配置などを工夫し、また職員間で子供の様子を共有してきた。
			遊び込める力を培う	自分なりの目的をもって、試したり、考えたり出来る時間を確保し、遊具や用具、素材の種類、配置、タイミングなどを職員で話し合いながら環境づくりをした。
			食育を推進する	自分で育てた野菜(さつまいも、大根、ブロッコリーなど)を自分で収穫して友達と一緒にいただくことで、野菜に関心を持ち、同時に食への関心をもてるようにしてきた。
		自分の思いを表現できる子供	絵本に親しみ楽しむ	うちどくの推進を図るために、うちどくコーナーの環境を整えたり、お勧めの絵本を紹介し、玄関に掲示するなどしてきたが、活用する子供が少なかったため、まだまだ、子供たちが関心をもてるように改善していく必要がある。
			体験したことを伝える	自分の思いを出したくなるようなクラスの雰囲気づくりを意識し、人の話を聞く大切さ、話を聞いてくれる嬉しさや伝わる喜びを感じられるよう努めてきた。
			自己肯定感を高める	一人一人の思いや考えを受け止め、遊びの中で、「やった」「出来た」など、満足感や達成感を味わえるように心がけてきた。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

保護者と子供の成長を共有できているかの項目は、そう思うと回答が98%と評価をいただき、今後も子供の学びや成長を分かりやすく伝えていけるよう努めていきたい。自然に関わり、興味関心ももてるような環境を工夫しているでは、7%の方が、あまりそう思わないと回答しているので、自然と関わり、その中で、探求心や好奇心が生まれる園庭などの環境を再構成していきたいと考えている。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

本年度は、コロナの影響もあったが、地域の教育的環境を活用できていなかったため、今後は地域の特性を活かしていきたいと考えている。また、未就園児の集いを充実させていくなど、地域の子育て支援のコミュニティの役割となるようにしていきたい。保護者と子供の成長を共有できるように、今年度は実施できなかった学級懇談会などを行い、園全体で一人の子供を育てていく意識を向上していきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

ゆめプランに沿って保育に取り組んでおり、『主体的に活動できる子供を育てている』ことは、保護者にも理解を得られている。子供が園に楽しく登園 出来ているということは、園生活に楽しさを感じ、かけがえのない場になっているからである。中之島は街中にあり、自然を感じる場面が少ないが、環境づくりを工夫し、自然に目を向けられる子供たちを育てていきたい。また、遊ぶ姿や園だより等から、子供たちの心の成長も伺えている。コロナ禍で、保護者同士のかわりも少なくなり、また行事等も縮小されているが、子供たちのモチベーションをあげながら、少しでも園生活を実り多いものにするために工夫しながら保育していたことが伺えた。